



## Target2

安心して子どもを産み育て  
心やすらかに暮らせるまち

子育て・高齢者・障がい者を支援

子育て支援では、「子ども医療費助成事業」として、これまで小学校就学前まで対象であった「通院」分の医療費助成対象を小学6年生まで拡大し、子育て家庭の経済的負担を軽減。入院は中学3年生、通院は小学6年生まで医療費の負担がなくなることができることになりました。

赤ちゃん応援事業は、妊婦健康診査費助成や特定不妊治療の医療費の一部を助成する事業を継続。安心して赤ちゃんが誕生できるよう支援します。

保育園は、老朽化した東保育園に代わる民設民営の「白石はるかぜ保育園」が今春に開園し、待機児童の解消と保育サービスの充実を図ります。

また、市内の保育園・幼稚園にかかる第3子以降の保育料無料化事業も継続。子育て家庭の経済的負担の軽減を図ります。

放課後児童クラブは、福岡地区で地域が実施主体となって平成26年4月開設に向け検討して

います。設置場所の福岡小学校の余裕教室の整備を行います。

高齢者支援では、特に介護予防事業は、これまで以上に重要性を増しており、昨年度に事業の見直しを行った二次予防事業対象者の把握方法や、介護予防教室の開催を各地区で実施していくなど、地域包括支援センターと連携しながら、高齢者の健康維持・増進や生活機能の低下を予防するなどの取り組みを強化します。

生活支援サービス体制では、昨年7月から行っている有償ボランティアを活用した「白石市高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業」による家事・移動サービスやふれあいサロンの支援活動拡大に努めます。

障がい者支援は、現行の障害者自立支援法が本年4月から障害者総合支援法に移行しますが、障害者総合支援法の理念に基づき、地域社会における共生の実現に向けて、「白石市障害福祉計画(第三期)」「白石市障害者計画(第二期)」を踏まえ、障害福祉サービスの充実など、

### ●子ども医療費助成事業(事業費:1億2,977万3千円)

平成25年4月診療分から、外来医療費の助成対象者を小学校卒業相当の年齢まで拡大します。

### ●保育園運営事業

- ・民間保育園運営支援(事業費:9,567万円) 白石市立保育園の民営化方針に基づき選定された社会福祉法人が運営する民間保育園の保育環境充実などを支援します。
- ・保育園給食調理業務(事業費:3,232万8千円) 平成21年11月に策定した白石市市行財政改革推進計画(集中改革プラン)【改訂版】に基づき、南・北保育園の給食調理業務を民間事業者へ委託します。

障がい者の日常生活と社会生活を総合的に支援します。

地域医療の確立と健康づくり支援は、市民の安全、安心と健康を守るため、公立刈田総合病院の経営健全化を支援するとともに、白石市医師会と連携した地域医療ネットワークの拡充に努めます。

## Target3

市民が主役になって地域をつくり  
交流を楽しむまち

市民活動の支援と  
地域コミュニティの活性化

「まちづくり交付金制度」の創設で、各地区のコミュニティ活動の支援を行い、また、「やる気応援事業(地域コミュニティ育成支援事業)」を継続実施し、市民団体の活動支援を行い地域の活性化を図ります。

姉妹都市の交流では、平成25年度は登別市との姉妹都市締結から30周年を迎え、また、ハーストビル市とも姉妹都市締結から20年目の節目を迎えます。姉妹友好都市交流協会・国際交流協会と連携し、記念事業として市民レベルの相互交流や、記念式典・祝賀会を開催するなどさらなる親善交流に発展するよう努めます。

### ●白石市・登別市姉妹都市締結30周年記念事業(事業費:154万6千円)

登別市と白石市の縁は、明治2年戊辰戦争で敗れた伊達藩の家臣、白石領主片倉家一門が北海道幌別郡(現在の登別市)に集団入植し、登別市の礎を築いたことに始まります。以来140余年、両市の歴史的なつながりと民間団体などの交流によって昭和58年10月に盟約が結ばれ、産業経済の交流や教育文化の市民交流などが行われてきました。30周年記念事業は、東日本大震災でいち早く物心両面の支援を受けた登別市への感謝の気持ちを込めて、産業経済や教育文化の交流などを実行委員会で企画しています。



登別市 白石市 姉妹都市提携記念祝賀会



姉妹都市少年スポーツ交流「武道大会」

- 1\_昭和58年にスタートした登別市との交流。産業経済の交流や教育文化の市民交流などが行われてきた。
- 2\_平成24年度に行われた少年スポーツ交流大会「武道大会」。

1

2